

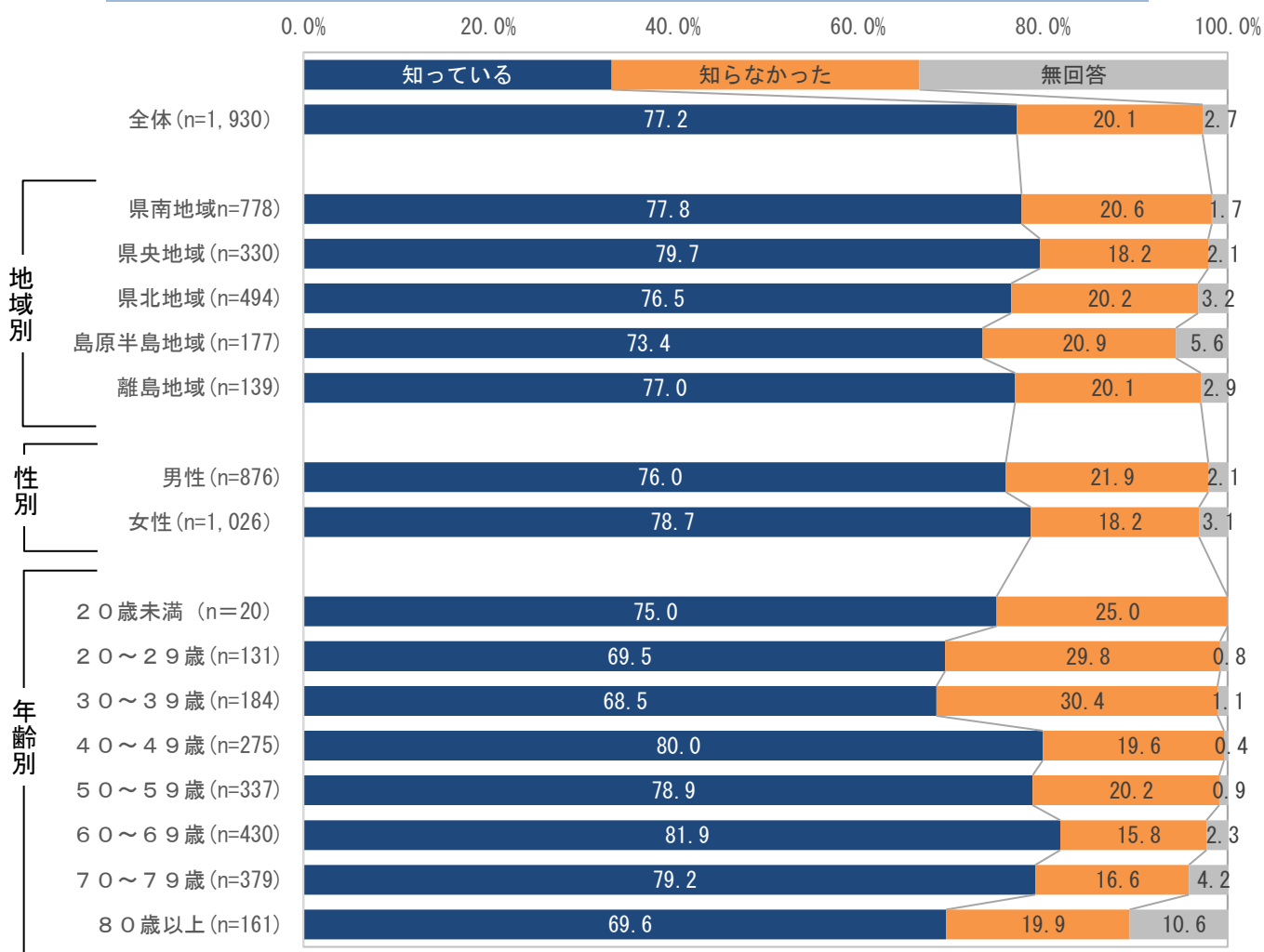
【少子化・人口減少対策について】

問 37

あなたは、夫婦の出生率が近年減っていないのに対し、未婚率の上昇が少子化の大きな要因となっていることを知っていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

未婚率が少子化の要因と「知っている」のは8割弱



〔全体〕

未婚率が少子化の要因と「知っている」が77.2%で、「知らなかった」が20.1%であった。

〔地域別〕

地域別で全体の傾向との相違は見られず、認知度は「県央地域」が79.7%で最も高く、次いで「県南地域」が77.8%、「離島地域」が77.0%と続いている。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られず、認知度は女性の方が2.7ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

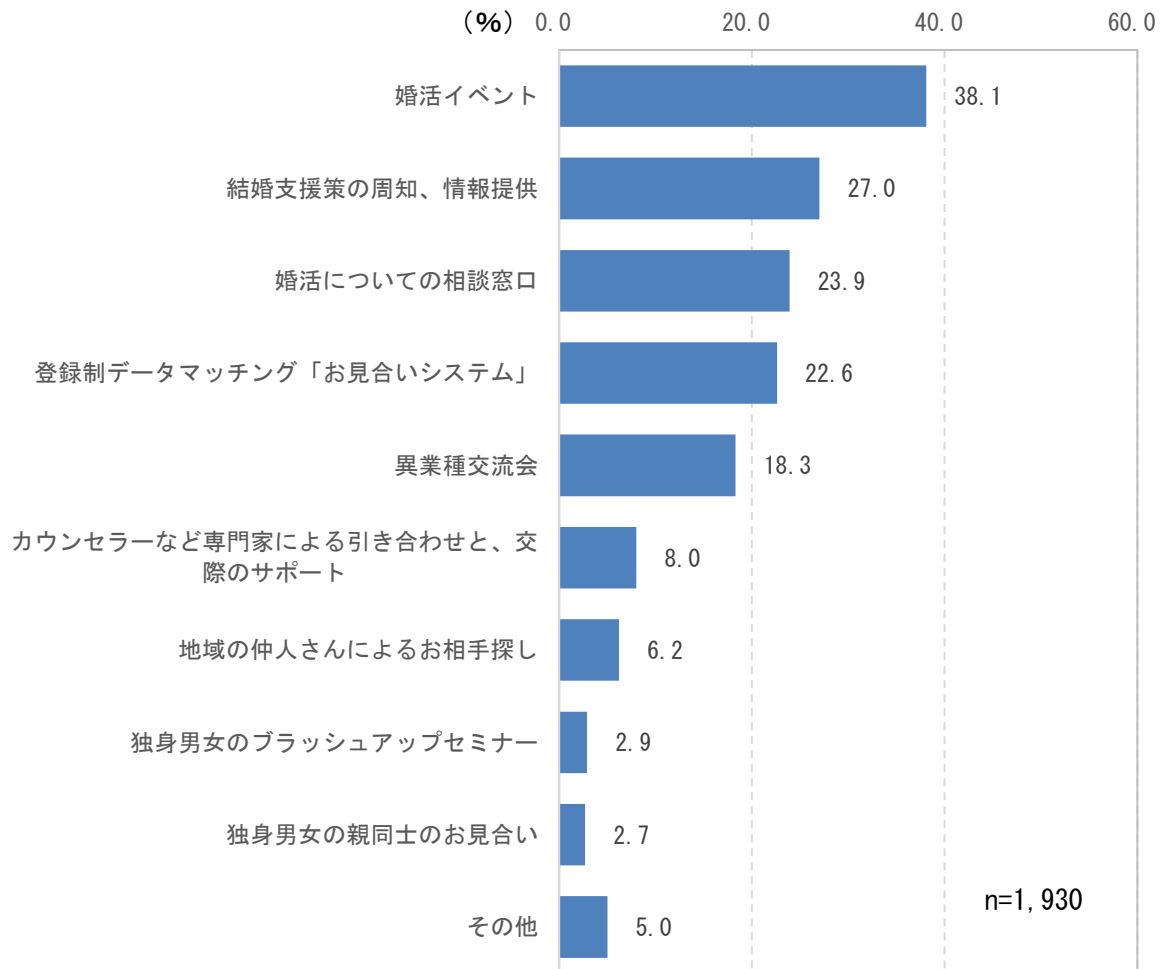
年齢別での認知度は、バラツキがあるものの全体との相違は見られず、「60歳代」が81.9%で最も高かった。

問 38

県では、独身者の結婚の希望がかなう環境づくり（結婚支援）を行っています。あなたは、県の支援策として、何が有効だと思いますか。（〇は2つまで）

【調査結果（ポイント）】

「婚活イベント」が約4割でトップ



〔全体〕

結婚に有効な支援は「婚活イベント」が 38.1%で最も多く、次いで「結婚支援策の周知、情報提供」が 27.0%、「婚活についての相談窓口」が 23.9%の順で続いている。

〔地域別〕

地域によるバラツキは見られるものの、おおよそ全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別でも全体の傾向との相違は見られない。

〔年齢別〕

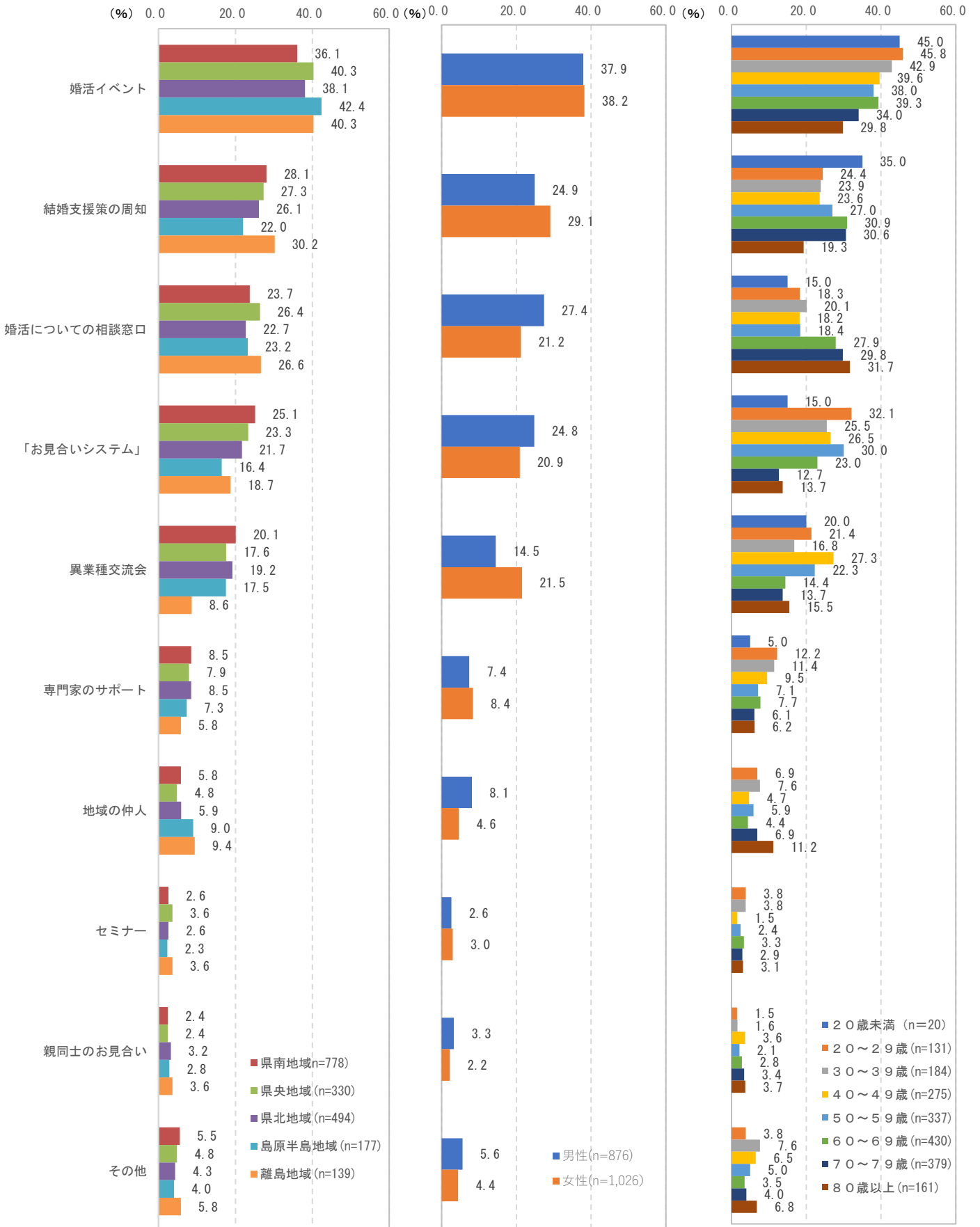
年齢別での「婚活イベント」は年齢の上昇とともに減少しており、「婚活についての相談窓口」は年齢の上昇とともに増加傾向にある。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

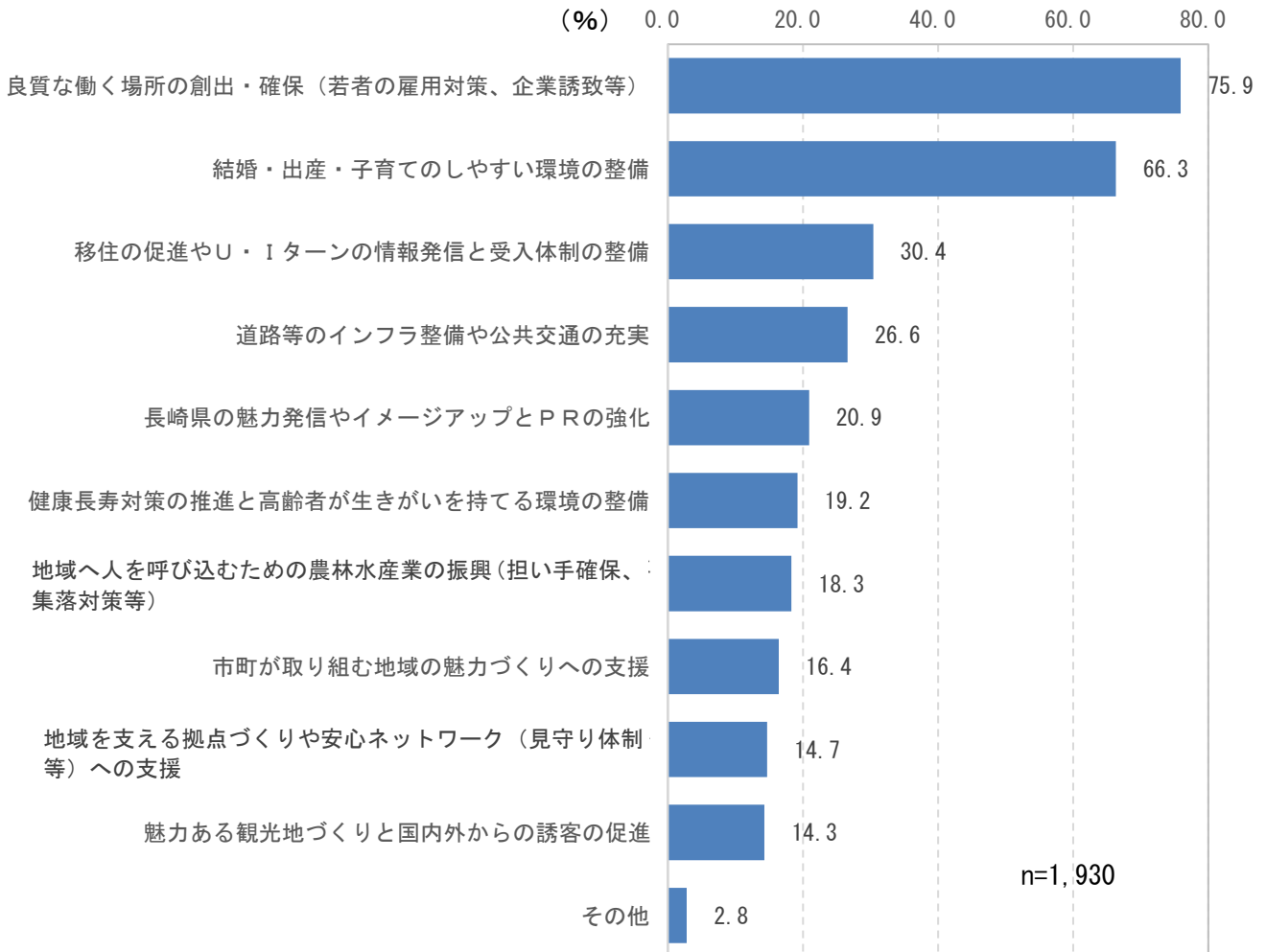
【年齢別】



本県では、人口減少に歯止めをかけるために、様々な施策に取り組んでいます。本県が、今後、より強化すべきと思う取組は何ですか。(〇はいくつでも)

【調査結果 (ポイント)】

「良質な働く場所の創出・確保(若者の雇用対策、企業誘致等)」が約8割でトップ



[全体]

強化すべき施策は「良質な働く場所の創出・確保(若者の雇用対策、企業誘致等)」が75.9%で最も多く、次いで「結婚・出産・子育てのしやすい環境の整備」が66.3%、「移住の促進やU・Iターンの情報発信と受入体制の整備」が30.4%の順で続いている。

[地域別]

地域によるバラツキは見られるものの、上位3項目で全体の傾向との相違は見られない。

[性別]

性別による全体の傾向との相違は見られない。

[年齢別]

年齢別で「結婚・出産・子育てのしやすい環境の整備」は20歳未満と70歳以上で他年齢よりも10ポイント前後低くなっている。

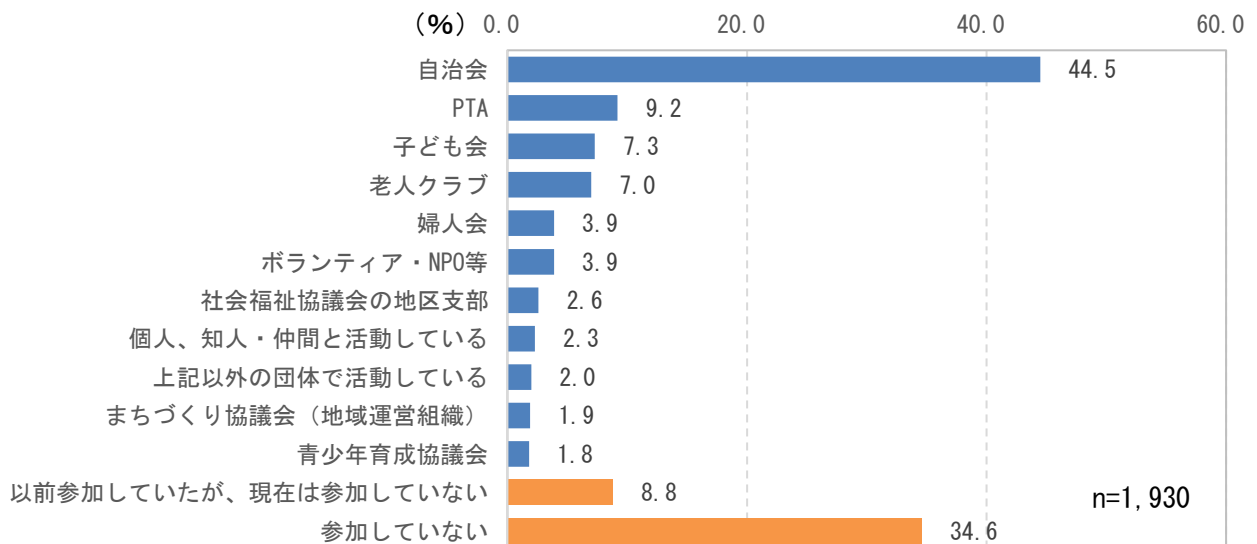
【地域コミュニティについて】

問 40

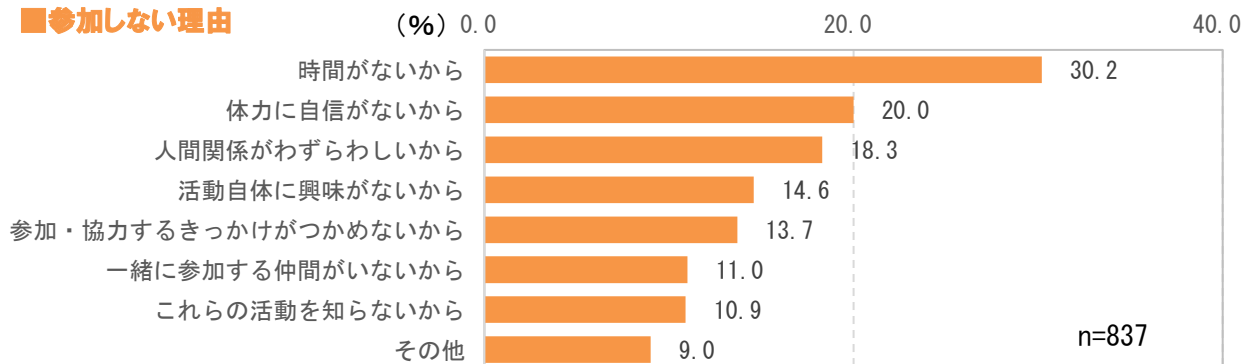
お住まいの各地域で次のような団体が活動しています。あなたは、これらの活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

【調査結果 (ポイント)】

**「自治会」が5割弱でトップ、
参加していない理由は「時間がないから」が約3割でトップ**



■参加しない理由



〔全体〕

参加している活動は「自治会」が44.5%で最も多く、次いで「PTA」が9.2%、「子ども会」が7.3%と続いている。

一方、「以前参加していたが、現在は参加していない」が8.8%、「参加していない」が34.6%となっており、参加しない理由は「時間がないから」が30.2%で最も多く、次いで「体力に自信がないから」が20.0%、「人間関係がわずらわしいから」が18.3%と続いている。

〔地域別〕

地域による上位3項目で全体の傾向との相違は、県北地域で「参加していない」が1位、島原半島地域で「子ども会」、離島地域で「老人クラブ」がそれぞれ3位となっており、参加しない理由で上位3項目での全体の傾向との相違は、県央地域、島原半島地域で「人間関係がわずらわしいから」が2位となっている。

〔性別〕

性別による参加活動で全体の傾向との相違はないが、参加しない理由で男性は「人間関係がわずらわしいから」が2位となっている。

〔年齢別〕

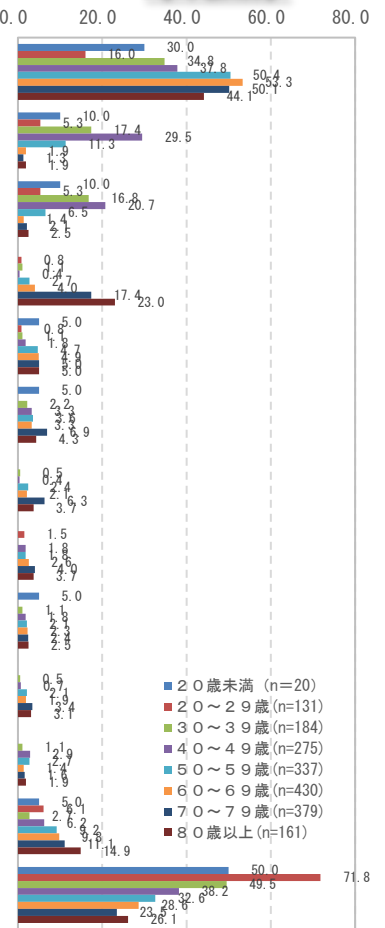
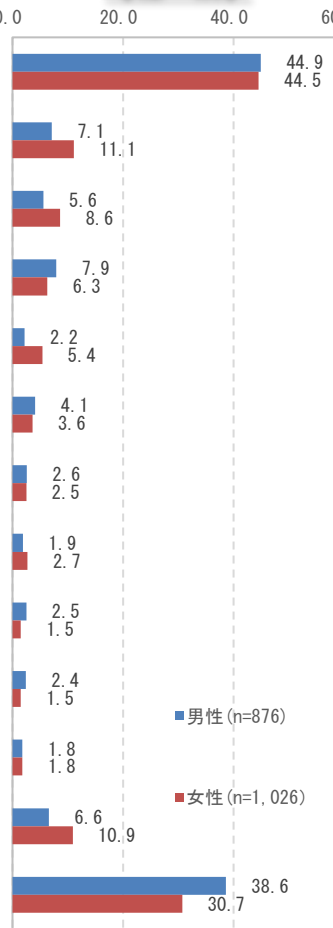
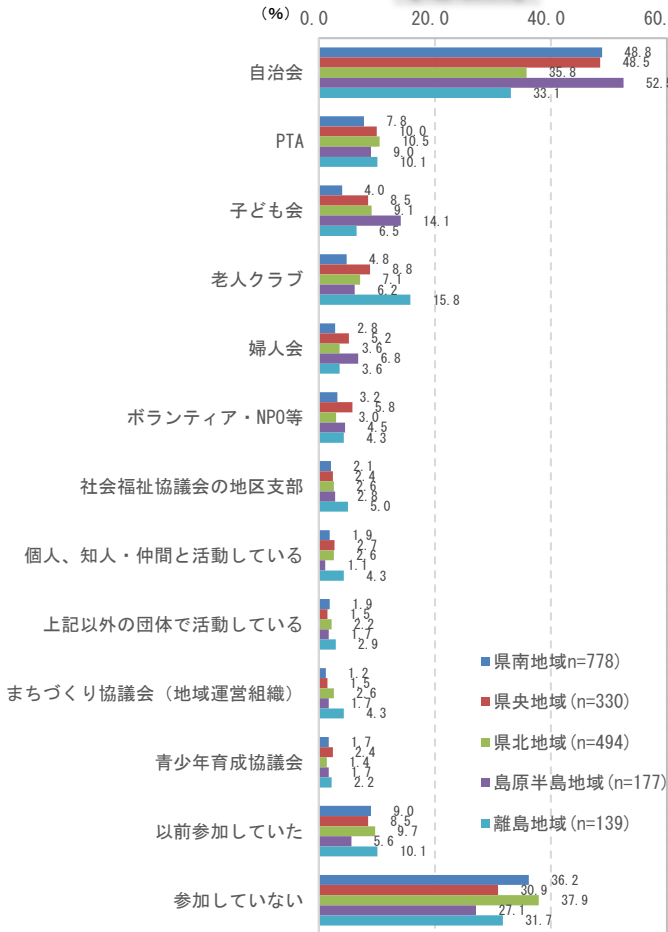
年齢別では、年齢の上昇とともに「参加していない」割合が減少し、参加しない理由は「体力に自信がないから」の割合が増加している。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

【年齢別】

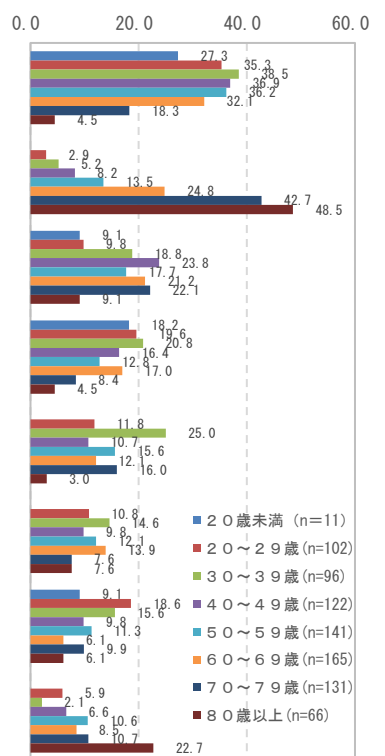
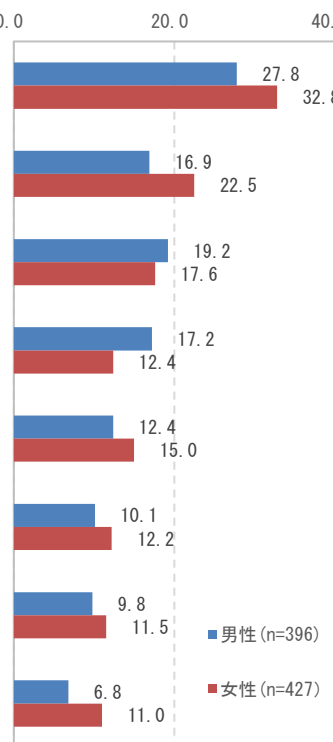
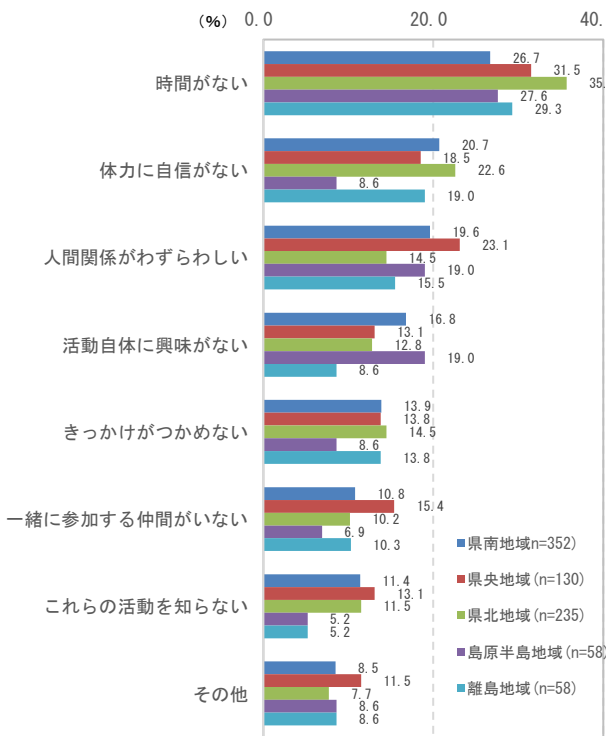


参加しない理由

【地域別】

【性別】

【年齢別】

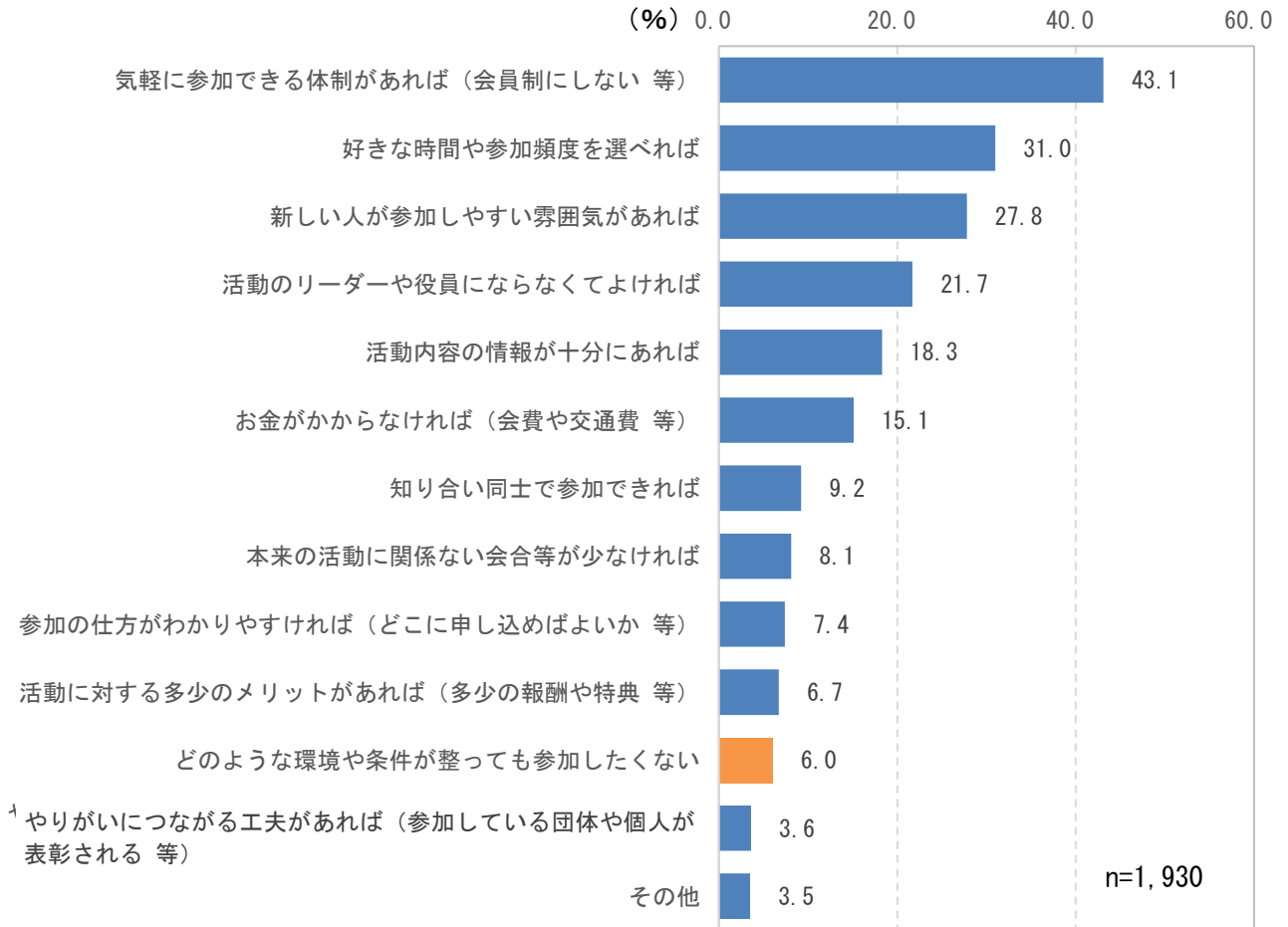


問 41

あなたは、どのような環境や条件があれば、地域の活動に参加しやすいと思いますか。
(〇は3つまで)

【調査結果 (ポイント)】

「気軽に参加できる体制があれば (会員制にしない等)」が 4 割超でトップ



〔全体〕

参加しやすい環境は「気軽に参加できる体制があれば (会員制にしない 等)」が 43.1%で最も多く、次いで「好きな時間や参加頻度を選べれば」が 31.0%、「新しい人が参加しやすい雰囲気があれば」が 27.8%の順で続いている。

一方、「どのような環境や条件が整っても参加したくない」は 6.0%となっている

〔地域別〕

地域によるバラツキは見られるものの、上位 3 項目で全体の傾向との相違は見られない。

〔性別〕

性別による全体の傾向との相違は見られない。

〔年齢別〕

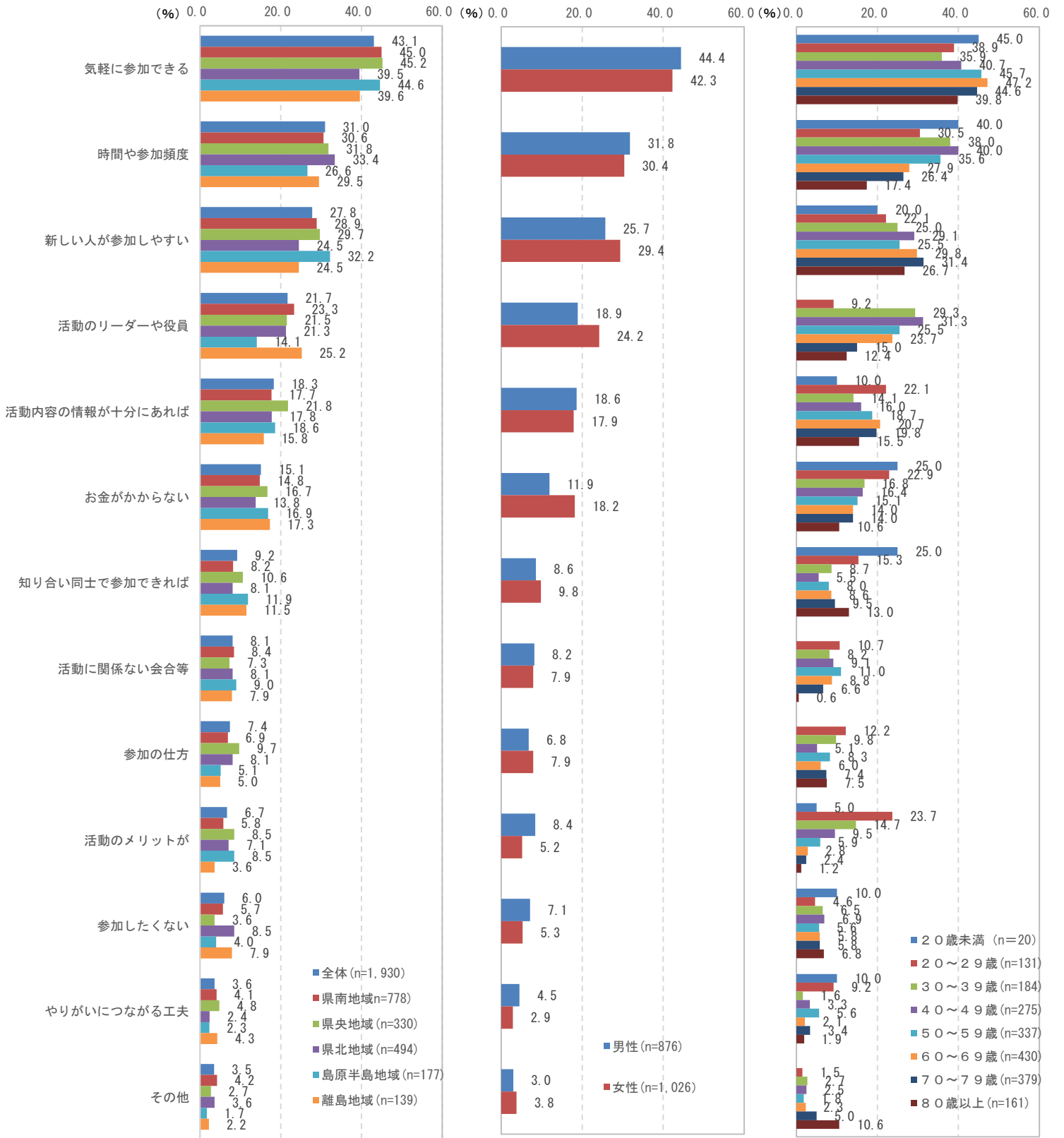
年齢別でバラツキは見られるものの、上位 3 項目で全体の傾向との相違は見られない。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

【年齢別】



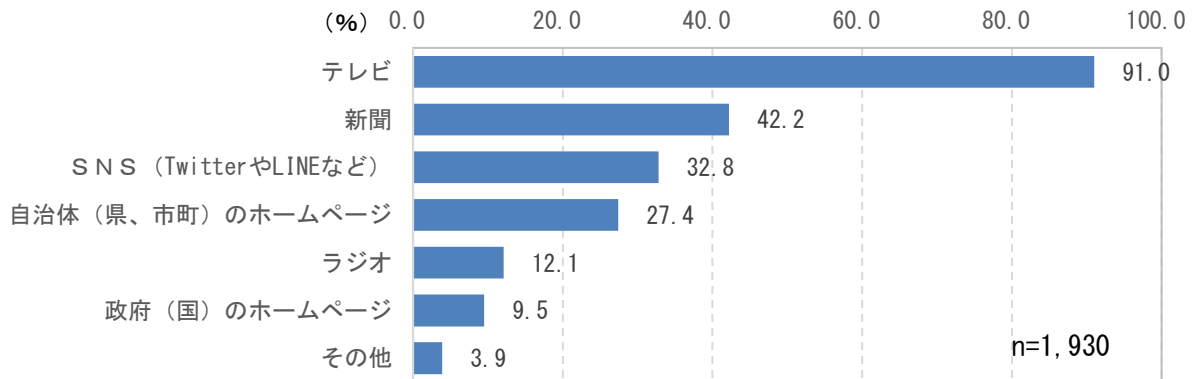
【新型コロナウイルス感染症対策について】

問 42

あなたは、コロナに関する情報をどの媒体から得ていますか。
(〇はいくつでも)

【調査結果 (ポイント)】

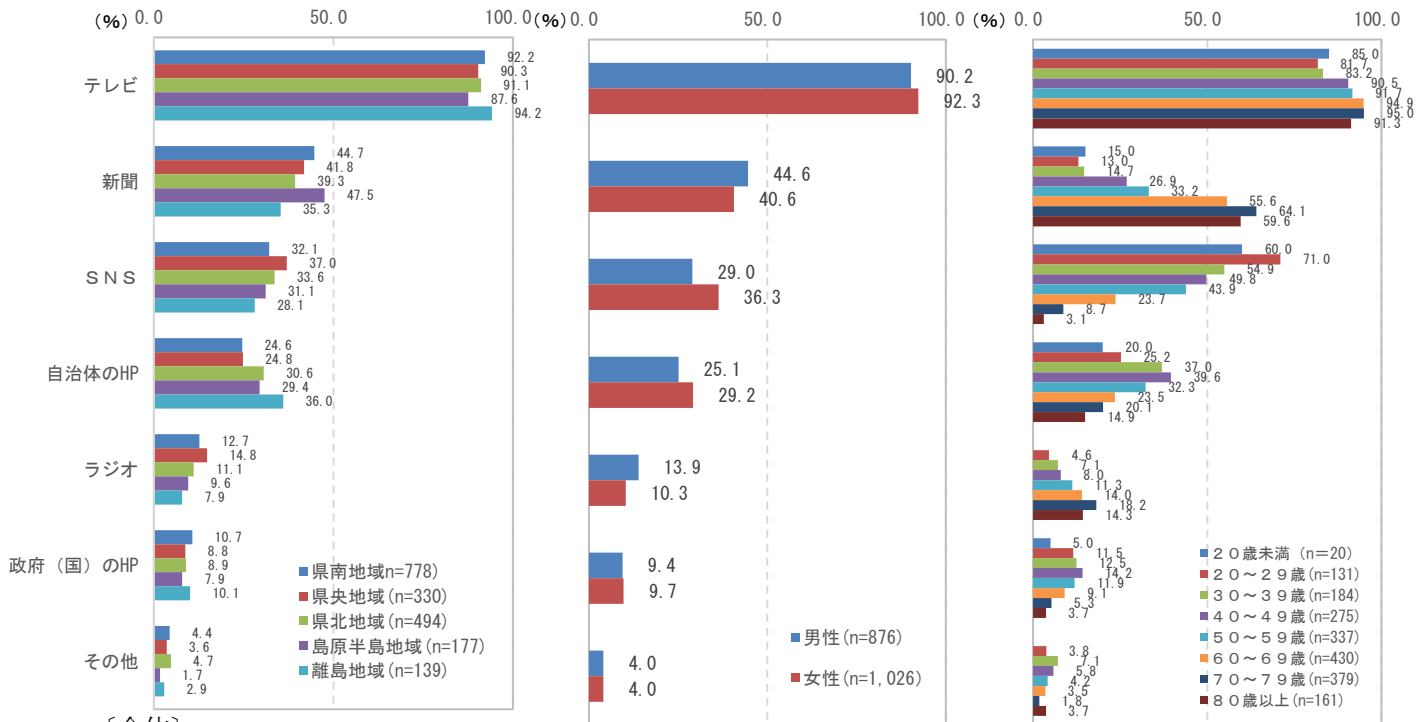
「テレビ」が9割でトップ



【地域別】

【性別】

【年齢別】



〔全体〕

情報を得る媒体は「テレビ」が91.0%で最も多く、次いで「新聞」が42.2%、「SNS (TwitterやLINEなど)」が32.8%で続いている。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は「離島地域」では「自治体 (県、市町) のホームページ」が2位となっている。

〔性別〕

性別による全体の傾向との相違は見られない。

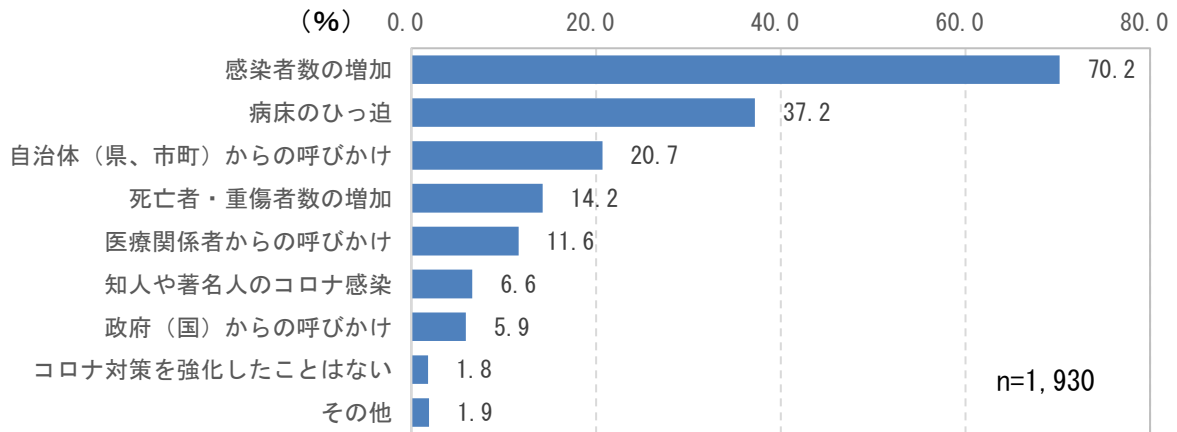
〔年齢別〕

年齢別での傾向としては「新聞」は年齢の上昇とともに増加し、「SNS (TwitterやLINEなど)」は年齢の上昇とともに減少している。また、「自治体 (県、市町) のホームページ」は年齢の上昇に伴い増加し「40歳代」を上限に減少に転じている。

あなたが、自身のコロナ対策強化のきっかけとして重視することは何ですか。
(〇は2つまで)

【調査結果 (ポイント)】

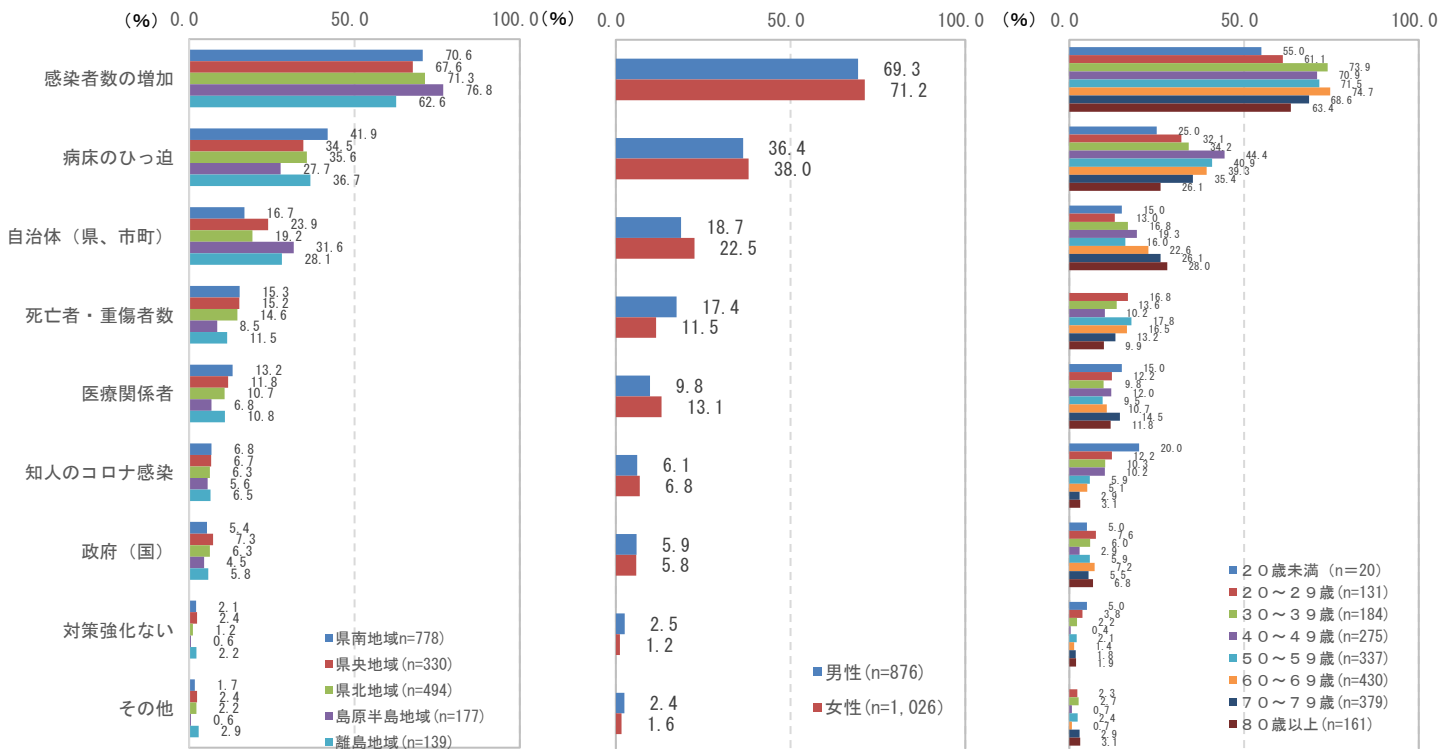
「感染者数の増加」が7割でトップ



【地域別】

【性別】

【年齢別】



[全体]

重視することとしては「感染者数の増加」が70.2%で最も多く、次いで「病床のひっ迫」が37.2%、「自治体 (県、市町) からの呼びかけ」が20.7%で続いている。

[地域別]

地域別における全体の傾向との相違は、ややバラツキがあるものの大きな相違はみられない。

[性別]

性別でも全体の傾向との相違は見られない。

[年齢別]

年齢別での傾向としては「感染者数の増加」は年齢の上昇に伴い増加し「60歳代」を上限に減少に転じており、「病床のひっ迫」は年齢の上昇に伴い増加し「40歳代」を上限に減少に転じている。

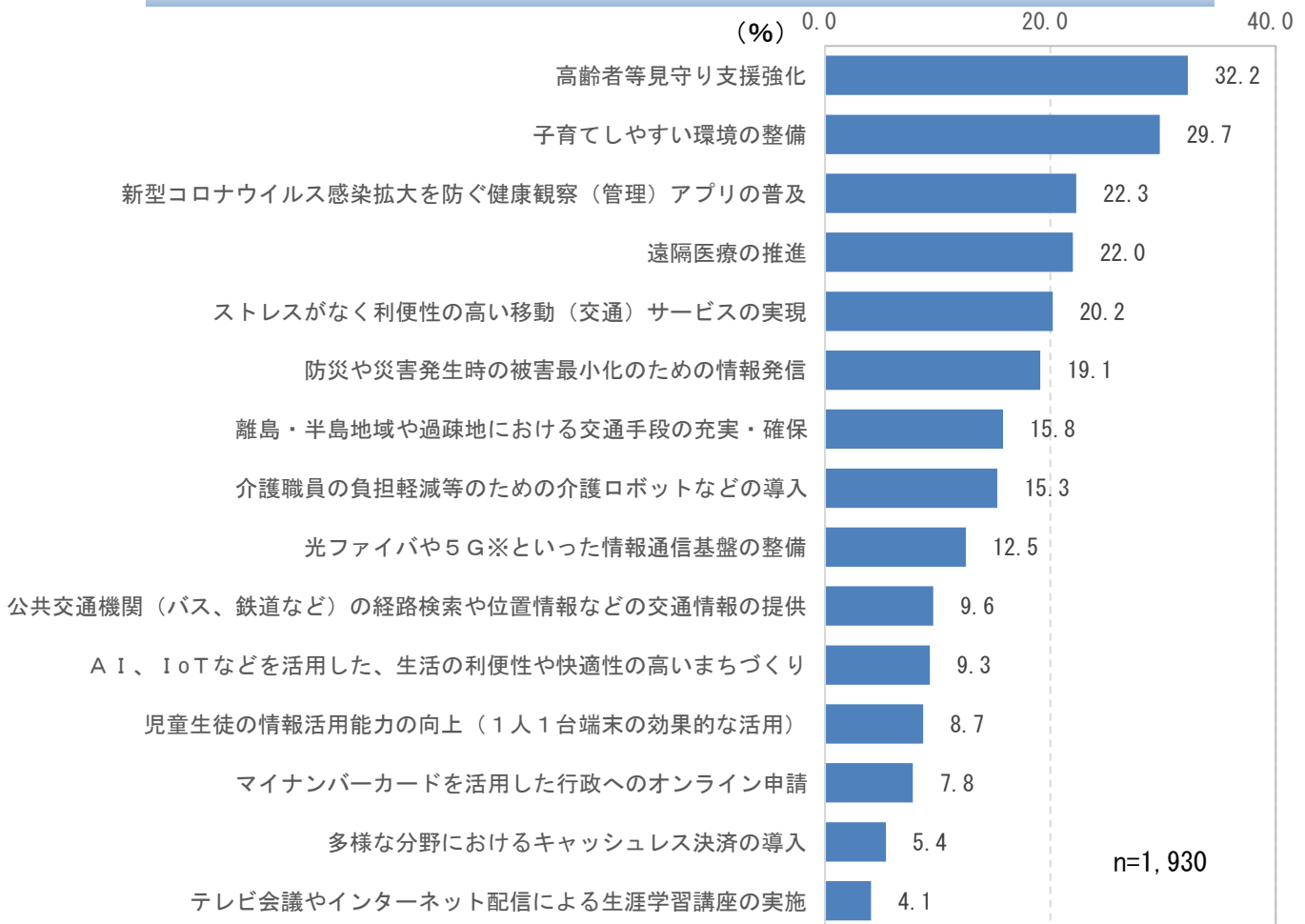
【デジタル化の推進について】

問 44

県民の豊かで質の高い生活を実現するために、ICT※を活用することが必要だと思うものは何ですか。（〇は3つまで）

【調査結果（ポイント）】

「高齢者等見守り支援強化」が3割強でトップ



〔全体〕

ICTの活用が必要と思うものは「高齢者等見守り支援強化」が32.2%で最も多く、次いで「子育てしやすい環境の整備」が29.7%、「新型コロナウイルス感染拡大を防ぐ健康観察（管理）アプリの普及」が22.3%の順で続いている。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は「離島地域」では「離島・半島地域や過疎地における交通手段の充実・確保」が全体の約3倍の48.2%で1位となっている。

〔性別〕

性別による全体の傾向との相違は見られない。

〔年齢別〕

年齢別での傾向としては「高齢者等見守り支援強化」は年齢の上昇とともに増加し、「子育てしやすい環境の整備」は年齢の上昇とともに減少している。

※ ICT (Information and Communication Technology) : 「情報通信技術」の略であり、コンピューターを使って人と人、人とコンピューターが通信する応用技術のこと。IT (Information Technology) とほぼ同義。

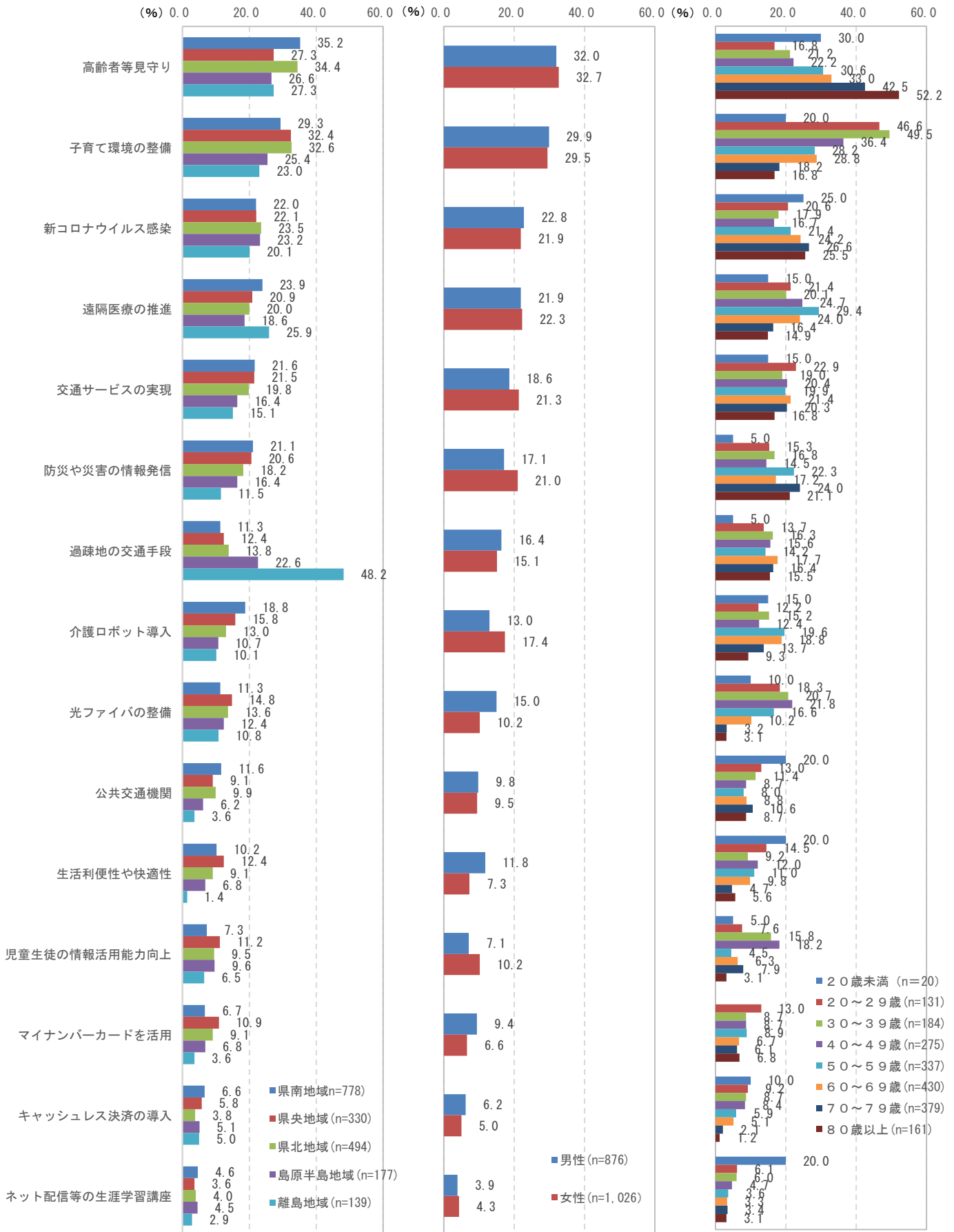
※ 5G : 5Gの「G」は「Generation」の頭文字を取ったもので、「第5世代移動通信システム」の略称。高速・大容量、高信頼・低遅延、多数同時接続の三つが軸となり、社会に大きな技術革新をもたらすといわれている。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

【年齢別】



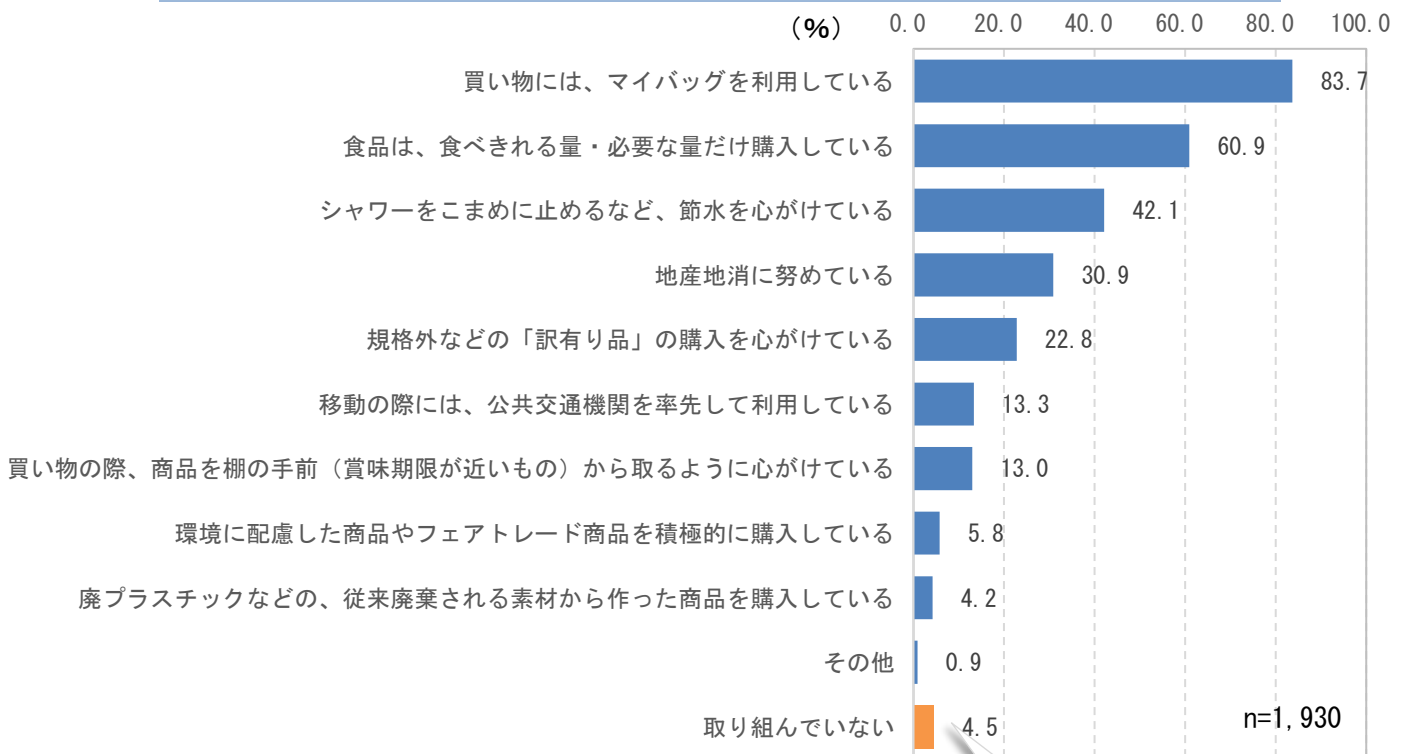
【SDGs（持続可能な開発目標）について】

問 45

あなたはSDGs（エス・ディー・ジーズ）※について、現在どのような取組を行っていますか。（〇はいくつでも）

【調査結果（ポイント）】

「買い物には、マイバッグを利用している」が8割強でトップ



[全体]

SDGsの取組みでは「買い物には、マイバッグを利用している」が83.7%で最も多く、次いで「食品は、食べきれぬ量・必要な量だけ購入している」が60.9%、「シャワーをこまめに止めるなど、節水を心がけている」が42.1%の順で続いている。

一方、「取り組んでいない」は4.5%でその理由は、「取組み方がわからない」が41.9%で最も多く、次いで「SDGsという言葉を知らない」が34.9%となっている。

[地域別]

地域により多少バラツキが見られるものの、全体の傾向との相違は見られない。

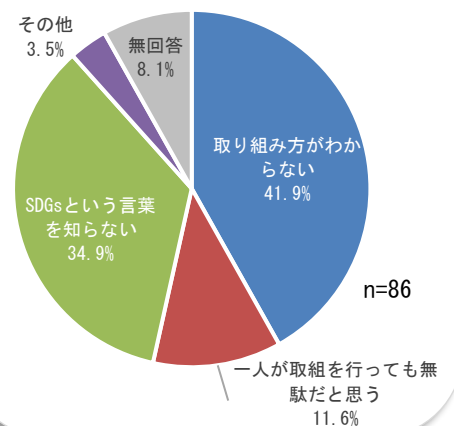
[性別]

性別でも全体の傾向との相違は見られないが、女性が全ての項目で男性よりもポイントが高い。

[年齢別]

年齢別でも全体の傾向との大きな相違は見られないが、「地産地消に努めている」は年齢の上昇とともに増加している。

■ 取り組んでいない理由



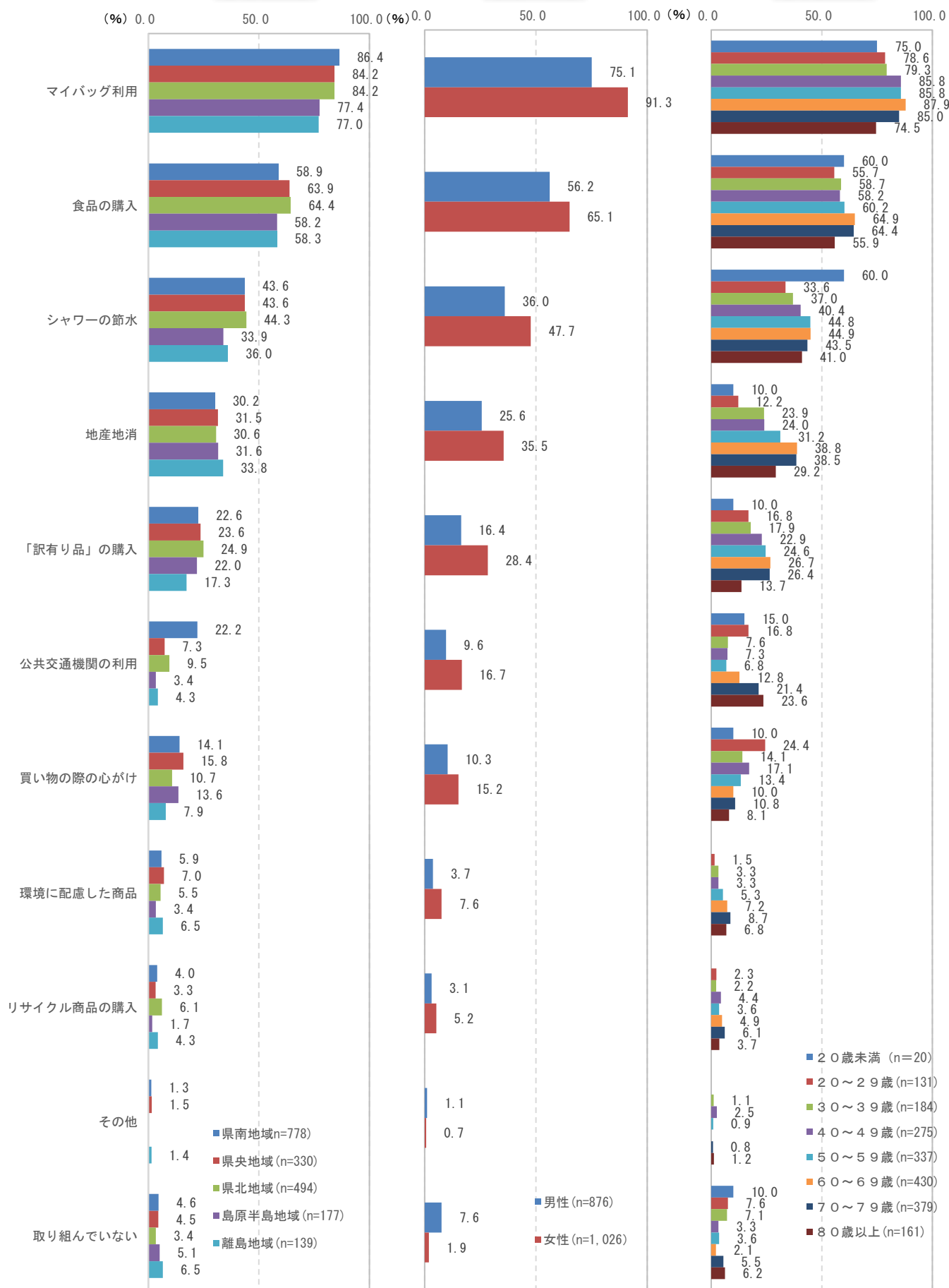
※SDGsとは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの17分野の国際目標で、「誰一人取り残さない」という理念のもと、持続可能な社会の実現を目指しています。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

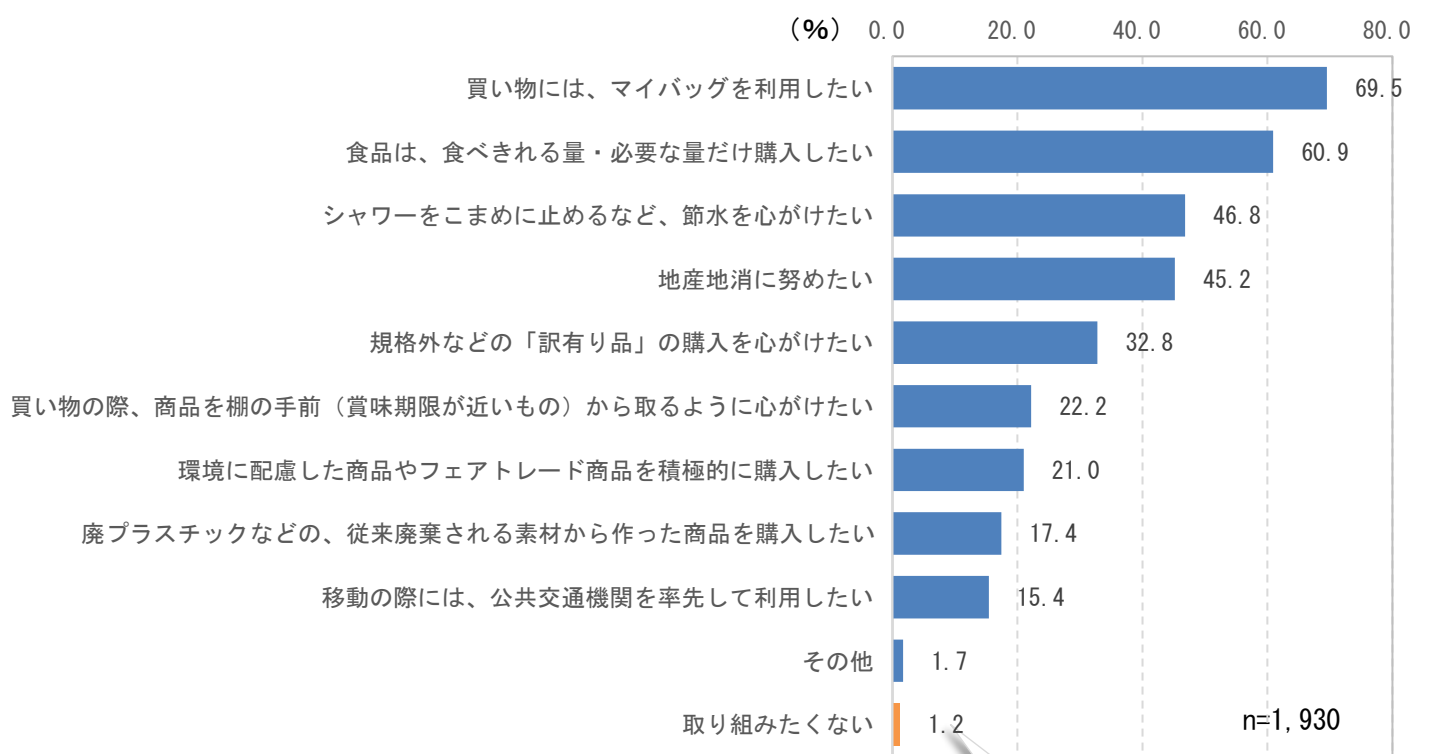
【年齢別】



あなたは、SDGs（エス・ディー・ジーズ）について、今後どのような取組を行っていき
たいですか。（〇はいくつでも）

【調査結果（ポイント）】

「買い物には、マイバッグを利用したい」が7割でトップ



[全体]

今後の SDGs の取組みでは「買い物には、マイバッグを利用したい」が 69.5% で最も多く、次いで「食品は、食べきれる量・必要な量だけ購入したい」が 60.9%、「シャワーをこまめに止めるなど、節水を心がけたい」が 46.8% の順で続いている。

一方、「取り組みたくない」は 1.2% でその理由は、「SDGs に興味がない」が 39.1% で最も多く、次いで「取り組みたいことがない」・「一人が取組を行っても無駄だと思う」がそれぞれ 13.0% となっている。

[地域別]

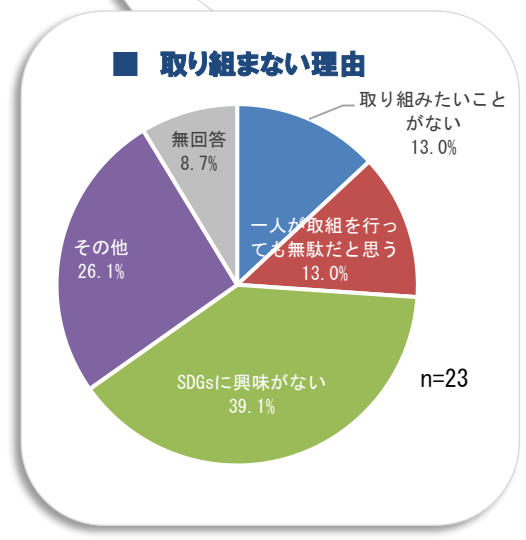
地域により多少バラツキが見られるものの、全体の傾向との相違は見られない。

[性別]

性別でも全体の傾向との相違は見られないが、女性が全ての項目で男性よりもポイントが高い。

[年齢別]

年齢別でも全体の傾向との大きな相違は見られない。

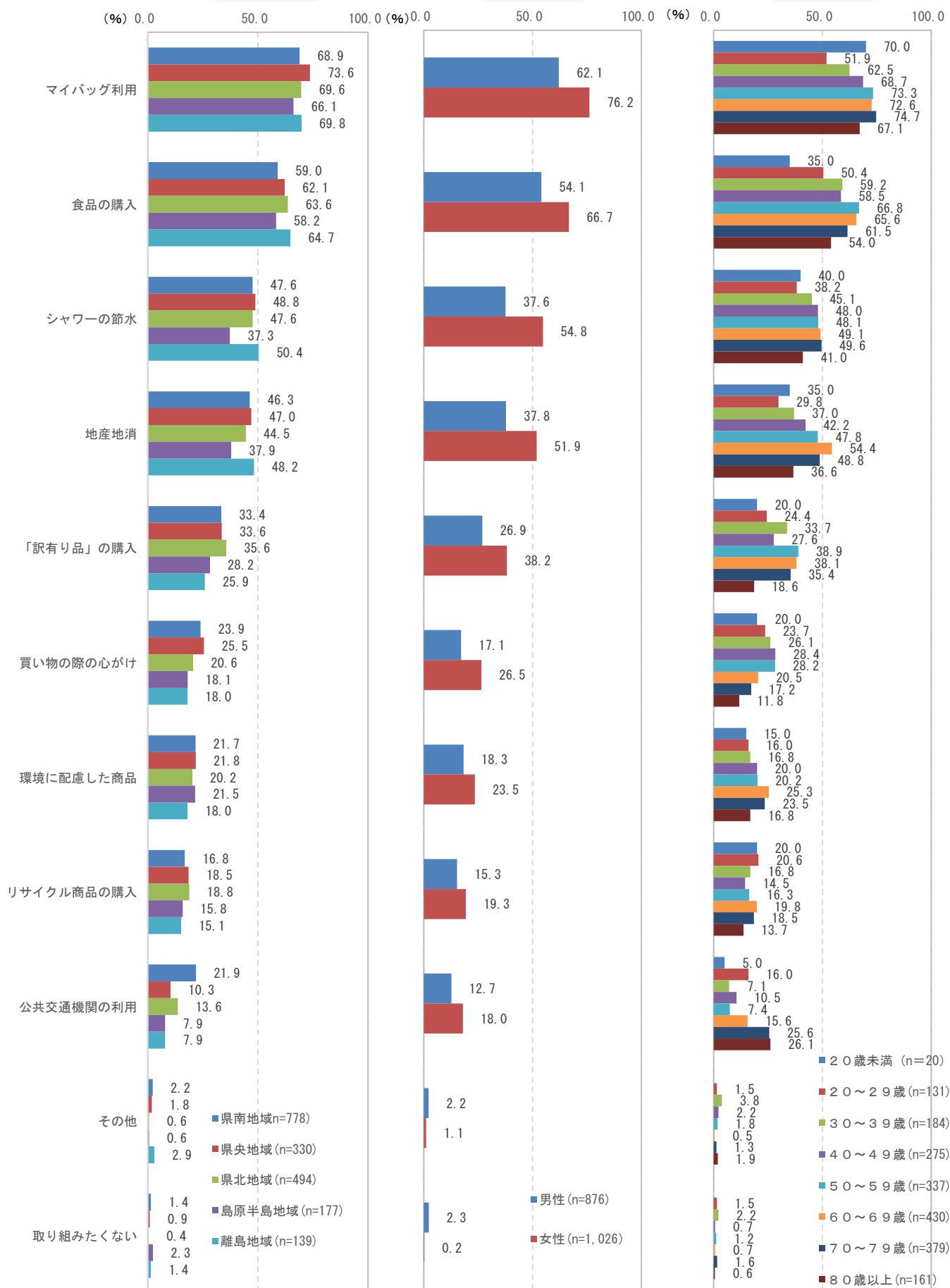


【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

【年齢別】

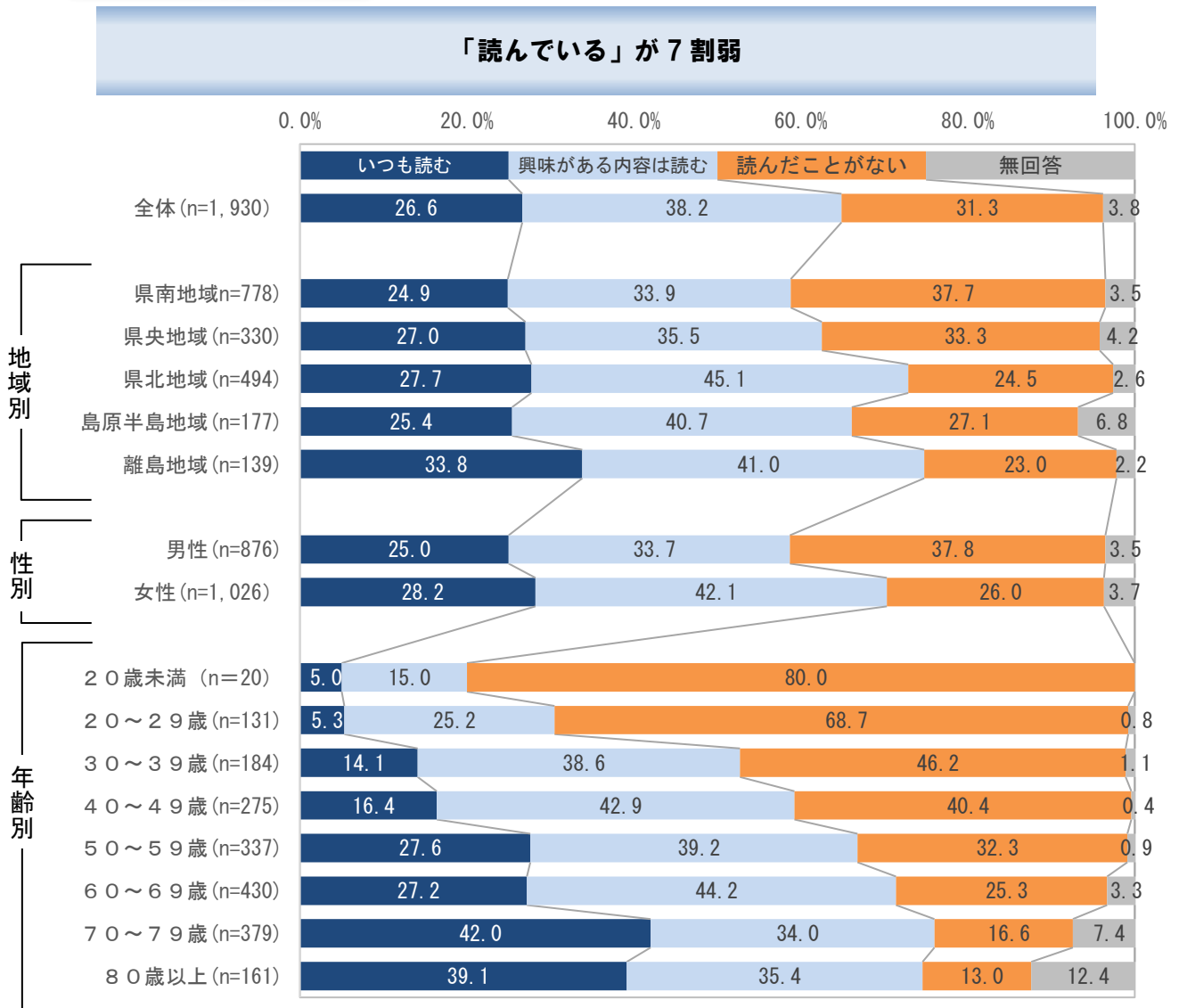


【県広報誌、県職員について】

問47

あなたは、この1年間（2020年9月～2021年8月）に、県の広報誌「つたえる県ながさき」を読んだことがありますか。（〇は1つ）

【調査結果（ポイント）】



〔全体〕

「つたえる県ながさき」について、「興味がある内容は読む」が38.2%で最も多く、次いで「読んだことがない」が31.3%、「いつも読む」が26.6%の順となっており、「読んでいる」（「いつも読む」＋「興味がある内容は読む」）は64.8%であった。

〔地域別〕

地域別における全体の傾向との相違は「離島地域」で「いつも読む」が2位となっている。また、「読んでいる」は「離島地域」が74.8%で最も高く、次いで「県北地域」が72.8%、「島原半島地域」が66.1%と続いている。

〔性別〕

性別では「男性」は「読んだことがない」が37.8%で1位、「女性」は「いつも読む」が2位となっており、「読んでいる」は女性の方が11.6ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

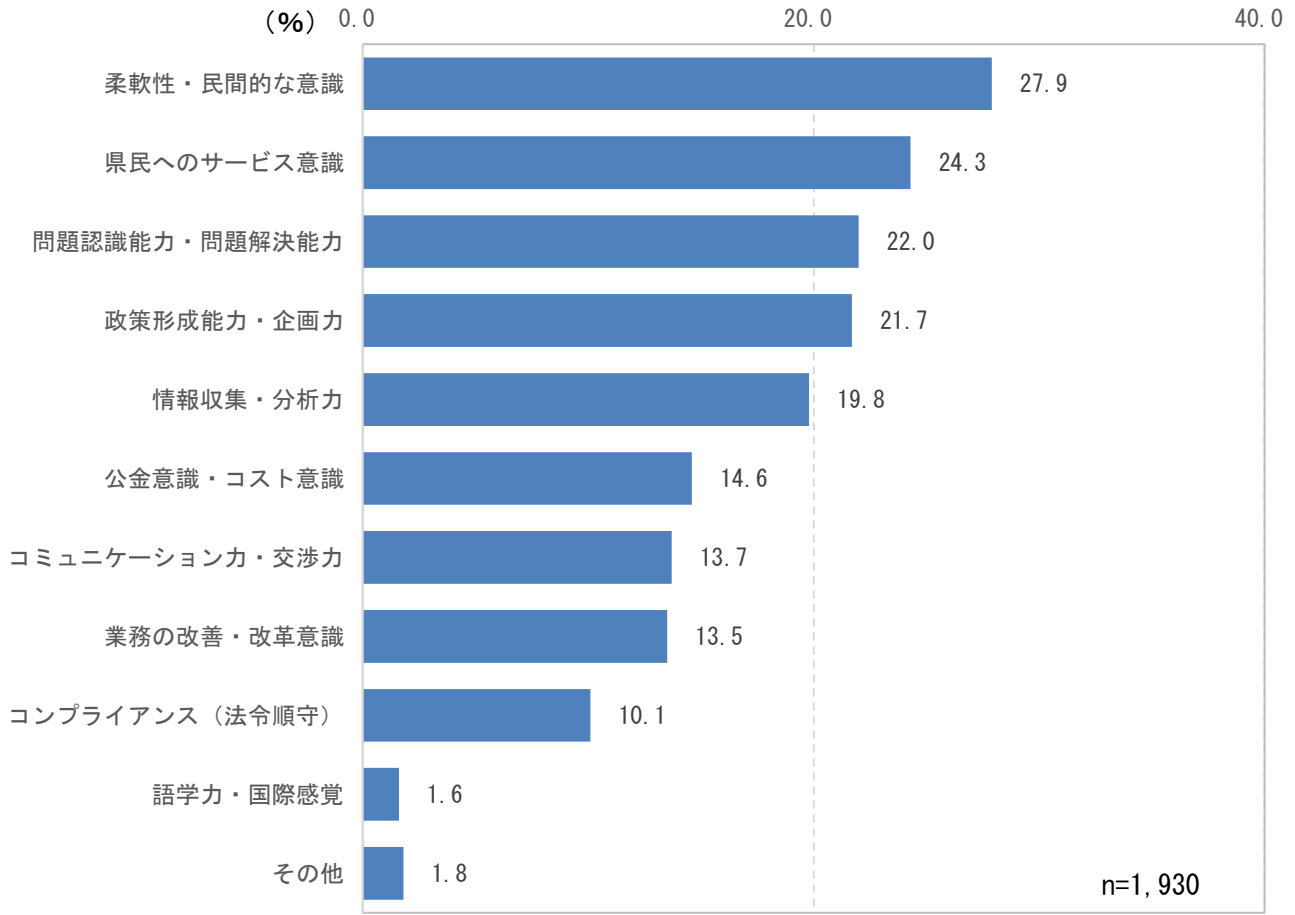
年齢別で40歳未満では「読んだことがない」が最も多く、70歳以上は「いつも読む」が最も多くなっている。

問 48

あなたは、県の職員が持つべき意識や能力の中で、どれが重要だと思いますか。
(〇は2つまで)

【調査結果 (ポイント)】

「柔軟性・民間的な意識」が3割弱でトップ



〔全体〕

県の職員が持つべき意識や能力は「柔軟性・民間的な意識」が27.9%で最も多く、次いで「県民へのサービス意識」が24.3%、「問題認識能力・問題解決能力」が22.0%の順で続いている。

〔地域別〕

地域によりバラツキが見られるものの、上位3項目の全体の傾向との相違は「県南地域」及び「離島地域」で「問題認識能力・問題解決能力」が2位、「離島地域」では「政策形成能力・企画力」が3位となっている

〔性別〕

性別での全体の傾向との相違は「男性」で「県民へのサービス意識」が1位、「女性」で「問題認識能力・問題解決能力」が2位となっている。

〔年齢別〕

年齢別では大きくバラツキが見られ、「柔軟性・民間的な意識」は年齢の上昇とともに増加し「40歳代」を上限に減少しており、「県民へのサービス意識」は年齢の上昇とともに増加している。また、「問題認識能力・問題解決能力」は年齢の上昇とともに増加し「60歳代」を上限に減少している。

【地域別・性別・年齢別比較】

【地域別】

【性別】

【年齢別】

